

<団体紹介>

団体連絡先	住所	〒230-0051 横浜市鶴見区鶴見中央 1-4-3 共同ビル 5 階		
	電話	045-508-1955	FAX	045-508-1955
	E-mail	info@abcjapapan.org		
	URL	www.abcjapan.org/		
発足年月日	2000 年 10 月（法人設立日 2004 年 4 月 1 日）			
団体設立の背景・目的	<p>1990 年の出入国および難民認定法の改正前後から、ブラジルや南米から多くの人が来日し、生活している。横浜市鶴見区は、横浜市で最多の南米出身が集住している地域であり、生活の拠点となった日本への定住化志向が強まり、移民 2 世にあたる日本生まれの子どもたちも増加している。しかし、保護者は日本語を学ぶ機会がないため十分な情報を得られず、不況になれば真っ先に解雇対象となるなど生活困窮に陥る不安定な状態に置かれている場合が少なくない。</p> <p>NPO 法人 ABC ジャパンは、当事者による当事者のための互助組織を目指して 2000 年に設立され、ポルトガル語による情報提供、同行支援を含む相談対応などを行い、地域内の関係機関と連携した支援体制を確立してきた。</p> <p>リーマンショック後に全国でブラジル人が大量解雇された 2008 年末には、全国のブラジル人コミュニティの団結を呼びかけ「NNBJ(在日ブラジル人全国ネットワーク)」を立ち上げたほか、就業支援としての成人向け日本語教室、外国につながる子ども向け教育サポートも行っている。</p> <p>地元および全国をつなぐネットワークを活用し、NPO 法人 ABC ジャパンは「多文化共生」、「ブラジル人・外国人住民の自立」、「子どもの教育保障」を主な柱とし、在日ブラジル人および外国人の生活課題解決を目指して活動を行っている。</p>			
主な活動	<p>①情報提供・相談対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポルトガル語による情報提供発信</li> <li>・行政文書等の翻訳協力</li> <li>・ポルトガル語による生活相談・同行支援</li> <li>・通訳つき生活オリエンテーション、ワークショップの実施</li> </ul> <p>②外国人(成人)向け教育事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本社会における自立・就労支援事業</li> <li>・外国人を対象とした日本語および技術習得支援事業</li> </ul> <p>③外国につながる子どもの教育支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不就学・不登校対策</li> <li>・プレスクール(就学前支援)</li> <li>・学習支援、居場所づくり</li> </ul> <p>④多文化共生の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区役所、横浜市、神奈川県等の多文化共生関連事業への協力</li> <li>・日本国内のブラジル人コミュニティ間の連携強化事業</li> <li>・ブラジル文化紹介</li> </ul>			

事業実施概要

事業名称	行政・学校と連携した外国籍保護者向けの日本語学習機会の創出および地域交流			
地域の課題	<p>横浜市鶴見区には市内最大の南米出身者のコミュニティがあり、特に臨海部工業地帯に集住している。20年以上地域内に住んでいる場合もあるが、仕事を優先し、日本語を体系的に学ぶ機会が少ないため、日本語レベルは総じて低い。</p> <p>鶴見区内の日本語教室の多くが企業内転勤者や専業主婦を対象としており、仕事で忙しく子育てにも不安を抱く外国人保護者が参加できるものは少ない。当団体が行う生活相談にも、学校からの連絡文が読めない、教師や地域住民とのコミュニケーションがとれないといった相談が多く寄せられており、外国籍保護者が地域社会との接点を増やし、地域で安心して生活するための情報を得て次世代を担う子ども達の進路に積極的に関わるために、保護者のニーズに合致した日本語教室を設置することが求められている。</p>			
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定住化の進む南米出身者を中心とする外国籍保護者が、日本語学習や地域交流を通じて、日本での子育てに対する不安を軽減し、子どもの教育に積極的に関われるようにする。</li> <li>・移民第2世の進路選択をサポートするために保護者に対する情報及び意識啓発を行う。</li> <li>・地域社会の各種行事に外国人住民が参加・実施することで、地域生活を充実させる。</li> </ul>			
事業内容	取組1		取組2	
	名称	コミュニケーション能力向上を主眼とした日本語教室	名称	外国人住民向けの生活オリエンテーションの実施
	内容	<p>学校の連絡文や行政文書などに頻出する語彙や表現を覚え、日常の使用頻度が高いが名称等がわかっていない家電や銀行のATM等のインターフェースで利用される特徴的な日本語を学習。また、様々な手続きを進めるためのコミュニケーション能力も伸ばせるよう、会話練習やロールプレイなどを取り入れた。</p>	内容	<p>子どもの教育、特に受験が必要な高校・大学の進学についてのガイダンスの実施。また、生活に密着した食の文化から母国と日本の食文化を学び、交流を深めるため料理教室を開催。</p>
	対象	主に横浜市鶴見区在住の南米出身者（ブラジル、ペルーなど）	対象	日本語教室参加者、区内在住外国人。多文化共生、外国人支援に関わる支援者
	時間	1回2時間×23回（全67時間）	時間	1回4時間×5回（全19時間）
	人数	17人	人数	74人

	取組3		取組4	
	名称	地域日本語教育の可能性についての地域発信ミニフォーラム	名称	関係機関連携・協力連絡会
	内容	多文化共生の実現には外国人住民の日本語学習だけでなく受け入れ側の体制整備も不可欠である。そのためひとつの作業・目標を共に行うことを地域住民の外国人と密に関わるきっかけを創出し、外国人の住む地域社会におけるサポートのあり方を考える機会とした。	内容	外国人住民の支援に関わる行政、学校、団体の支援者が一同に集い、地域内での様々な課題に関する情報共有・情報交換を実施。異なる立場で支援に関わる関係者間で議論することで課題解決のためのアイデアや具体的な取り組みの実施につなげる。地域の外国人の社会参画についても検討。
	対象	地域住民、日本語教室参加者	対象	鶴見区地域振興課、鶴見国際交流ラウンジ、学校教員など
	時間	1回4時間×2回(全8時間)	時間	1回2時間×4回(全8時間)
	人数	63人	人数	12人
連携体制	多文化共生を特徴の一つに掲げる鶴見区役所や区内小中学校の半数に国際教室が設置されている学校とはこれまでも連携・協働して外国人支援、外国につながる子どもの教育関連の事業を行ってきた。さらに自治会や他の関係団体との連携を目指し、事業への積極的な参加も呼びかけた。			
成果と課題	<p>日本語教室や進学ガイダンス、鶴見まちカフェへの参加をきっかけとして、地域の定住外国人のニーズを把握し、母語での相談解決につなげることができた。また、今回のさまざまな取り組みを通して、保護者同士、学生同士、地域住民同士の交流を図り、本団体や行政等が行っている事業を紹介することもできた。</p> <p>日本語学習者が日々の生活の中で本当に必要としている情報を得られるトピックを設定することで、日本語教室により積極的に関わる傾向が見られた。また、進学ガイダンスやまちカフェへの参加を通して進学、日本文化など地域生活を多角的に考えるきっかけを与えることができ、特に保護者の地域における日本語学習への意欲を高めることができた。</p> <p>日本語教室では、外国人定住者の生活に密着した実用的な日本語を取り上げた内容の授業を行っていたため、学習者の意欲も高かったが、生徒のニーズに完全に応えるまでには至っていないので、今後はさらに学習者の需要に寄り添った授業を進めたい。一方で、教室ではアシスタントの数が充実していたため、外国籍保護者が抱える子育てや生活の悩みを具体的に聞き出すことができた。こうした情報を他の日本語教室やネットワークと共有し、文字や漢字だけでなく、外国人生活者にどういった支援が必要か情報共有できることが求められている。</p> <p>また、依然としてフィリピンなど東南アジアから来日するケースも増えており、外国籍の定住者の高齢化も進んでいるが、子どもの就学・進学に向け、手続きや仕事も両立しなくてはならず、日本語を体系的に学ぶ機会が少ない。外国人の保護者が働きながらも生活に必要な日本語を学べるように、彼らのニーズを的確に把握しながら授業を臨機応援に組める体制整備を進める必要がある。</p>			